

# これまでの取り組み経緯について

平成27年12月21日

第4回石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ  
(略称:幌向再生ワークショップ)

# 1. ワークショップ等の開催経緯

- 「石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ」を、平成26年2月24日（第1回ワークショップ）に設立し、これまで3回のワークショップと現地視察を2回開催している。
- 第3回ワークショップ（H27. 2. 23）では、遮水試験の実施、湿生植物の導入手法について議論した。

	開催日	主な議題
第1回WS	H26. 2. 24	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 「石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ」の設立</li><li>□ 石狩川下流域における取り組み状況</li><li>□ 石狩川下流幌向地区の自然再生について</li></ul>
第2回WS	H26. 3. 24	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 『石狩川下流幌向地区自然再生実施計画書』策定</li></ul>
現地視察	H26. 7. 4	<ul style="list-style-type: none"><li>□ ワークショップメンバーによる現地視察<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 札幌市立大学、平岡公園、美唄湿原、幌向地区自然再生実施箇所</li><li>➢ 意見交換会</li></ul></li></ul>
第3回WS	H27. 2. 23	<ul style="list-style-type: none"><li>□ 遮水試験の実施方法について<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 粘性土の置土による試験施工の実施</li><li>➢ 遮水効果の有無を確認</li></ul></li><li>□ 湿生植物の導入手法について<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 導入元の対象とする地域は、かつての幌向原野とその周辺地域を基本</li><li>➢ 段階的に導入種を確保（旧幌向原野→石狩平野→石狩低地帯）</li><li>➢ 平成29年度に初期導入候補種の導入を予定</li></ul></li></ul>
現地視察	H27. 9. 3	<ul style="list-style-type: none"><li>□ ワークショップメンバーによる現地視察<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 幌向再生地（現地状況、湿原植生再生試験、遮水盛土試験）、待機圃場</li><li>➢ 意見交換会</li></ul></li></ul>

## 2. これまでの主な意見

	主な意見	対応状況
第3回WS (H27. 2. 23)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミズゴケの生育環境として、水位が特に重要だが、それが一年中同じであることがベストである。20cmの水位変動くらいが限界になってくると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成27年度に遮水試験を行い、遮水効果を確認した。（資料-2）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査動線のように、必要な部分を少しずつ作っていき、柔軟に整備していくのが良い。</li> <li>・ 調査動線としては、作業のために効果的でなければならないが、一つの視点としては、中に入ってどう見えるか、もう一つの視点としては、堤防など離れたところから見たときに中に入った人が絵になるかという、内部景観と外部景観両方の面を考えていくのが良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークショップで、幌向再生地を活用していくための方法を議論していただく</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この取り組みを長く続けていくためには、地域の協力、理解、応援、支えが重要。そのために、活動をできるだけ目に見えるよう可視化していく、あるいは、将来はこうなるというもの、昔の写真などで目標を示していくことが良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幌向再生地の植生導入イメージを検討。（資料-3）</li> </ul>
現地視察 (H27. 9. 3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 現在の自然再生実施計画には無いが、幌向再生地に侵入している外来種等の除草計画を検討しておく必要がある。</li> <li>▪ オオアワダチソウの繁茂域には、表土が堆積しているので確実に除去することが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オオアワダチソウ等の除去を目的とした表土鋤き取り、ヤナギ林除去、ヨシ群落の鋤き取りを検討。（資料-2）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 遮水試験で用いた置土材料はミネラルを多く含み、これが泥炭側に流れ込むとミズゴケが生育できない。ミズゴケの生育には、ミネラルの少ない雨水を貯めることと、水位変動を30cm以下に抑えることがポイントとなる。</li> <li>▪ 試験盛土については、盛土の肩を削って表土を除去する対策が考えられる。又、盛土に植生が侵入しない工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 盛土による植生変化の影響を考慮して遮水盛土の断面形状を検討。（資料-2）</li> <li>・ 本施工時の際、試験盛土は撤去する。</li> </ul>

### 3. ワークショップメンバーによる現地視察（H27.9.3）

■ ワークショップメンバーによる現地視察を行い、幌向再生地の現状、湿原植生再生試験、遮水盛土試験、待機圃場を視察した。視察後には意見交換を行った。

幌向再生地の現状



湿原植生再生試験



遮水盛土試験



待機圃場

